

職業レディネス・テスト 現場での活用の実際



元川崎市立福田中学校教諭
キャリアコンサルタント
齋藤 茂

「注意、欠点を指摘されることを極端に嫌う」

「素の自分を出せない」

「黙っていて気力が感じられない」

——最近、中学生の中にそんな生徒が多くなった気がします。自分の将来が何となく不安で、自分はダメだという劣等感を持って中学校に入学してくるようになっていきます。不登校の生徒が多くなっていることも気になります。

そんな中学生に、まず小学校時代から引きずってきている劣等感をなくすために、小さな成功体験を積み重ね、自信をつけ、有能感を獲得してもらいます。その後、自分の興味、能力、価値観を見つけ、それらを満足させてくれそうな職業について調べ始める、そのような中学生になれたら「人生をデザインし、生き生き人生を送る」ことに向かって進めるのではないかと思

ます。そのためには小学・中学段階のキャリア教育が必要です。

私がキャリア教育を担当した学年の3年間(2015～2018年)の例をご紹介します。

1年生

1 中学校で学ぶ目的を伝える

1年生に中学校で学ぶ目的を伝える授業を行います。テーマは、中学校の学びと社会生活の関係を伝える「なぜ勉強するの?」です。時期は学校生活に慣れ、体育祭・文化祭など大きな行事を体験し、「3年生はすごい」と感じられた後です。高校への進学率が98%以上という現状から、高校受験科目の得点アップに生徒、保護者の関心が偏ってしまいがちですが、まず各教

科・特別活動の役割、ねらいを理解し、明確にすることから始めました。

・9教科、総合的な学習の時間の目的・ねらい・9教科は、いろいろな情報を正確に理解し、適切に取捨選択するために必要であること。

・特別活動の目的・ねらい・行事、生徒会活動、部活動、学級活動は、学び、考え、計画したことを疑似社会で実践する場であること。

・中学校での活動は、1年生、2年生、3年生のそれぞれの役割があり、それを自覚すること。それは初心者、中堅、リーダーなどの一般的な社会活動にも似ている。特に特別活動ではコミュニケーションが必要で、それを磨く場でもある。

以上のようなことを伝え、これから中学校で学習する目的、特別活動のねらいなどを意識して活動してもらいま

す。

2 職業レディネステストの実施

夏休み後に、ホランダの職業選択理論に基づく職業レディネス・テスト(第3版)(VRT)を実施します。自分で回答紙を集計し、プロフィール(WORK1～3)を作成します。

自己集計をすることで、興味のある職業がどの職業領域にあるかを知り、今まで知らなかった多くの具体的職業名に触れ、気になる職業を調べるきっかけになることを期待しています。

2年生

3 職場体験学習

2年生では、地元企業を中心に仕事を体験しました。職場体験学習を通し

て、働くことの目的は収入を得るためだけでなく、人によっては家族・家庭、自分の健康、社会貢献、職場での役割を果たす、良い友人関係を作る、自分の成長、アイデンティティの獲得などいろいろあることを伝えます。

4 中学校卒業後の進路決めに ついて「なぜ受験するの?」を テーマに授業

3年生になる前に、今後社会生活を送っていく中で出会う「転機」の乗り越え方を「受験」を使って伝えました。

- ①受験の意思決定、②自己の再評価、③受験先の特定、④情報収集、⑤仮決定、⑥訓練・練習、⑦入学・就職手続き、⑧途中で疑問を感じたら何度でも前の段階に戻ってやり直せばよいことなど。

3年生

5 卒業前に2回目のVRTを実施

今回は同学年に3年間担当だったため、VRTを2回実施することができました。

1年時は自己集計でしたが、3年時は雇用問題研究会によるコンピュータ判定を利用しました。コンピュータ判定を参考にした振り返りと2回実施することで六つの職業的志向性、三つ

の基礎的志向性の理解が深まり、社会人一人ひとりがそれぞれ役割分担された仕事をする事によって社会全体が回っていると理解する生徒もいました。

1年時と3年時の変化を見ると、異なった領域に興味を持った生徒が約5割いました。領域によっては7割の生徒が変わったところもありました。変わらない生徒も興味・自信のあることが明確になってきたなどの声がありました。

6 まとめ

中学校の活動は何のためにやっているのか、目先の高校受験に捉われず、ねらい・目的を理解して活動させることが大事です。これらの目的を達成するには、教員・保護者の生徒の支援も大切です。具体的には「わからないことは、勇気を出して友達に納得するまで聞く。聞かれたら笑顔で答え、納得してもらえらるまで粘り強く説明する。そうすることで自分と友達どちらも難しいコミュニケーション能力がレベルアップするね」でできることは手を抜かないで全力でやる。それを続けていくと自信をもってできることが増え、もっと上級レベルのことができるが見えてくるよ」など普段の関わりの中で伝えていくことが必要だと思えます。

授業・体験後の振り返りでの生徒の感想などには次のようなものがありました。

した。

■「なぜ勉強するの?」

- ・少し勉強しようかなと思った。
- ・勉強する意味が変わった。
- ・今まで高校受験のためだと思っていた。
- ・できることをやればいいんだ。

■職場体験学習

- ・仕事はお金儲けと思っていたが、もっと他に多くあった。
- ・体験して楽しかった。
- ・喜んでもらって嬉しかった。
- 「なぜ受験するの?」
- ・自分の人生をデザインする。
- ・転機は自分を成長させる。
- ・人生を楽しめそうだ。

これらの振り返りから小さな成功体験を積み重ねたことで、自分はやればできるという自信が付いてきたと思います。

標準化された職業レディネス・テストの結果から、自分自身を客観的に見ることができ、自分が納得した興味・能力・価値観が明確になり、自分の好きなこと・仕事を考えることができま

す。アイデンティティの確立へと進んでいきます。自分の人生をデザインし、興味ある職業に就くにはどんな力が不足しているのか、その力は付きそうか、いつまでに付ければよいかなどが見えてきて、将来の不安が減少することに繋がると思えます。

したがって、私が生徒に希望していた

る「人生をデザインし、生き生き人生を送る」ことに向けて進んでいくためには、職業レディネス・テストはなくてはならないものです。

7 課題と対策

課題もいくつか見つけましたが、解決策として次のように考えました。

- 教員の共通理解を図るための研修時間をとれない
- ↓年度初めや夏季休業中に研修を実施し、キャリア教育が生徒の自立・自律に有効であるという共通理解を図る。
- 保護者の協力が少ない
- ↓保護者には新入生保護者説明会(内容「なぜ勉強するの?」の大人版)、全体授業の参加を呼び掛け、集団活動が生徒の成長には欠かせないことを理解していただく。
- 全体授業「なぜ勉強するの?」「なぜ受験するの?」の時間やVRT実施時間がとれない
- 予算がとれない
- ↓時間・予算は、年間計画作成時に入れてもらうことで確保する。私が実施する全体授業・研修では、振り返りやアンケートをもとに授業内容を改善、時間短縮することに努める。